

アメリカ滞在記③

シカゴ近郊の生活

霧野萬地郎

▼1983年、シカゴ郊外に自動車電話の工場が出来た。今では誰もが使っているスマホの源流とも云うべき無線電話だ。この年に米国で新しく始まるサービスに合わせて、この工場生産を開始していた。オーディオを離れて、そこが新しい仕事場なのだ。子供たちの学校の区切りまで、暫く家族はNJに残った。その間は工場近くの安ホテルで過ごした。

この画期的な新規無線電話事業へは、通信機器の大手、米国のM社を始め、日本の電々御三家のN・F・O社に伍して、我がP社も端末市場への参入を目指した。ところが、米国M社の訴えを聞き入れた商務省が日本からの完成品にダンピング課税を掛けた。それを避けるために日本の各社は米国での生産に踏み切った。

一方、通信サービス事業は、電話会社の帯域電波の独占を防ぐために、米国電波局は全米の都市毎に入札で2業者へ使用周波数帯

域を売却し、その売り上げは国庫に納めた。実用開始はシカゴが初めて、私の赴任時は正にサービスが開始される直前だった。

車のトランクに土方弁当より大きな無線機を取付け、屋根のアンテナと運転席の受話器を配線して、実地テストを何度も行った。日本からの技術者や工場の仲間たちから丁寧にその仕組みなどを教えて貰った。

貨物の引込み線の横にある古倉庫を借りての貧相な工場建物だが、内部の生産ラインは最新の機器が設置されていた。

▼家族が移ってきた1984年にシカゴへ引越した際は、NJの家を売却して、シカゴ市郊外に家を買った。

この時の売買では、NJで家を買った小切手を手に、空路シカゴの不動産屋に飛んで、同じ日に家の購入契約をした。これは「かなりの離れ業」と関係者には云われた。

購入した家は一見平屋風だが、中二階建てで、半地下部屋もあるレンガ造り。値段は同等でも家のグレードはNJより高い。250坪ほどの敷地があり、庭には芝が敷き詰められ、2本の立派な姫りんごの木があり、春には綺麗

な花をつけた。塀は無い町なので、夏の芝刈りは必須で、タンポポなどが咲くと、「景観を壊す」と近所からクレームが付けられる。

全日制の小中学の日本人学校が近くにあり、息子二人は中学までそこで過ごし、卒業後は、帰国し、全寮制の高校に入学した。

▼内陸の平地シカゴの冬はミシガン湖から風が強

い。「風の街」とも呼ばれ、雪はそれほど積らないが、寒さはNJよりずっと厳しい。摂氏マイナス10度以下の日が続く中、ある冬にマイナス30度を体験した。家族は半地下の部屋に集まり、床暖房を背中当てて夜を過ごした。車からバッテリーを外し、毛布を巻いて屋内に置いて凍結を防いだ。

夏は暑いが湿度は少なく、日本よりは過ごし易い。極寒の冬から暑い夏へ移る短い春は一斉の芽吹きや、花が咲く美しい季節である。そして、秋も同様に短かいが、郊外では彩る



冬のシカゴ郊外の自宅

木々やリンゴ狩りなどを楽しめた。

▼シカゴ郊外へ車で一時間も走れば、米国の穀倉地帯が続く。小麦やトウモロコシの畑が遙か地平線にまで広がる。そんな畑の中にポツンと一軒の農家が見える事がある。万一に備えて、どの家も自衛の銃を置いていていると云う。

▼シカゴ産業科学博物館はユニークだ。古い機関車や車、ドイツの潜水艦U2、アポロ8号など子供も楽しめる物が多いが、中でも「胎児の成長」の展示は受精して5日目から37週までのアルコール漬の胎児が、順を追って展示されている。いずれも、事故などで亡くなった胎児だと説明



シカゴ市街とミシガン湖

がある。受精して5日目の胎児は本当に数ミリの小さな細胞の塊なのだが、37週となると本物の赤ちゃんそのものであり、その途中の成長の過程がよく分かるが、実に生々しい。

同じコーナーには縦と横にスライスされた死刑囚の人体の展示もあった。

▼娯楽面では、バスケットはあのマイケルジョーダンのブルス、野球ではカブス、アメフトのペアーズなど人気チームがあり、時には子供たちと観戦した。年齢になった子供達はサッカーやアイススケートなど地域の中で参加した。また、シカゴ・ジャズ、恐竜展示の博物館など文化的な要素も揃っていた。ミシガン湖でのトロリーリングで巨大鱒の釣果なども思い出に残っている。

都市の灯と月が湖上に揺れている

朝の陽を散らすままの霧氷林

標本の胎児百体みな寒か

▼五大湖の一つであるミシガン湖畔にシカゴは位置する。対岸はミシガン州だが、水平線の遙か彼方で見えない。夏休みを利用して、南北494km、東西190kmのこの湖を一週間かけて車で周回した。イリノイ、ウィスコン、ミ

シガン、インディアナの各州を走り、途中、スペリオル湖とヒューロン湖岸も通過した。この両湖との水位差は5mあって、ここを航行出来るように、パナマ方式のロックが5チヤネル建設されている。

ヒューロン湖のマキノー島は独立戦争時は要塞だったが、今は避暑地として観光客で賑わっている。車は禁止で、馬車と自転車の無公害の島となっていた。



マキノー島の交通

また、インディアナ州の砂丘も訪ね、淡水湖まで広がる砂浜に足を踏み入れる事が出来た。汚れの無い砂もそして、そこを抜ける風も気持ちが良い。

タンカーの灼いた巨体を水門へ

湖畔ゆくペアー自転車虹二重

続く